

タンザニア・ポレポレクラブ

2025 年度 事業計画書



タンザニア・ポレポレクラブ

〒182-0005 東京都調布市東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203
(Tel/Fax) 03-3300-7234、(E-mail) pole2club@polepoleclub.jp
(HP) <https://polepoleclub.jp/>

2025年度 事業計画書



各村を回り、大雨季の植林について説明する 40 村の連動体 HAKIMAMA のリーダー（写真中央）

【海外事業】

概 況

2025 年は、タンザニアで 5 年ごとに実施される国政選挙の年です。この選挙では大統領、国会議員、県知事、県評議員が選出されます。ブルドーザーと呼ばれ強権を振るったマグフリ前大統領の急逝を受け、副大統領から昇格したサミア現大統領は、この選挙で 2 期目の政権の座を目指しています。就任当初こそ抑圧的規制の緩和や反対勢力との和解の姿勢を見せるなどしていた同大統領ですが、選挙が近づくにつれ前政権を彷彿とさせるような強硬な姿勢が見られるようになっていきます。一部の国際機関や EU 委員会はタンザニアでの非人道的行為や治安機関による野党指導者の拘束などを受け、タンザニアへの支援を停止しました。他方野党の側も、最大野党は選挙への参加の是非を巡ってついに内部分裂を起こし、互いを非難し合う状況となっています。選挙を実力で阻止するかに受け取れる言動も見られ、政治的、社会的不安定さが増していることは否定できません。

選挙の年には、政治に関わる者は誰もが政治的動機で動くようになります。それは村落レベルであっても変わることはなく、足元のことはただでさえ疎かになりがちです。コミュニティベースでの活動もその影響を避けることはできませんが、そこに政治、社会的不安定の増大が加われば、なおさら影響は大きくなります。とくに国立公園の問題は停滞を余儀なくされるでしょう。

最大野党が分裂まじり選挙不参加となれば、今回の選挙も前回選挙に続き再び与党革命党（CCM）の圧勝で終わる可能性が高いように思われます。少なくとも現状を見る限り、選挙後も国立公園問題の解決に向けた動きが加速すると期待するのは難しいでしょう。しかし新たな政府・政権が国民の声に真摯に耳を傾け課題に対応していくものになるのか、数に物を言わせ限られた選択肢の中で得られた仮初めの信任に胡坐をかいた政治を行う政府・政権になるのか、タンザニア自身も問われていくことになるでしょう。

1. 世界遺産キリマンジャロ山におけるバッファゾーンの森（HMFS）への国立公園拡大問題の解決

●課題１： 問題解決に向けた取り組み体制の強化

2024 年度に接触を開始したタンザニアの弁護士会 TLS（Tanganyika Law Society）とキリマンジャロ山でバッファゾーンの森（住民の生活の森）まで拡大された国立公園の問題について、問題解決に向けた認識共有と協力体制が敷けるようにする。また TLS と個別の協力体制を築くだけでなく、これまでに関係づくりができていない人権団体 LHRC（Legal and Human Rights Centre）とタッグを組んで取り組める体制の構築を目指す。

●課題２： HAKIMAMA（※）の実行体制強化

HAKIMAMA は一部のリーダーに過大な業務が集中するようになっている。これは他のリーダーの多くが県の評議員など公務に就いている者が多く、選挙の関係もあり、時間が取れなくなっていることによるもの。このため計画が実行できない、あるいは不完全にしか実行できない状況が生まれている。そこで現在の主要リーダーによる実行体制をあらため、計画の実行チーム（3 ～ 4 人）を別に組織する。これにより現在の主要リーダーは意思決定を、実行チームは実質的な事務局として日常業務を実行していく体制になる。

※ HAKIMAMA（Harakati ya mlima Kilimanjaro kwa Mazingira na Maisha）：

キリマンジャロ山の森林保全と住民の生活向上を目指して、同山の森林に沿うモシ県の 40 村が組織した地域横断の連合体

2. 植 林

2025 年度も、引き続き村落エリアに属する荒廃尾根での森林回復植林に山麓住民と協力して取り組む。またキリマンジャロ山で養蜂に適した環境を整えていくため、蜜源樹を主力とした山麓村への苗木配布を継続する。

●課題１： 裸地尾根への森林回復植林の実施（1 万本）

(1) 2025 年度は以下の村落エリアで、荒廃裸地尾根への森林回復植林に取り組む。

- ・ オールドモシ（4,000 本）
- ・ 西キルア （2,000 本）

(2) マルチパーパスツリーによる社会生活林形成植林

- ・ キボシヨ （2,000 本）

(3) HAKIMAMA のモデル林造成植林

- ・ 2024 年度に当初計画した予定地での実施ができなかったため、あらためて場所を選定し、蜜源樹を主力にした「みつばちの森」のモデル林としての造成に取り組む。（2,000 本）

●課題２： 山麓村でのマルチパーパスツリー、蜜源樹配布（計 8 千本）

- ・ オールドモシ、西キルア、キボシヨ、ムボコム各郡で 2 千本ずつ、計 8 千本を配布。

●課題３： 植林実施時期、実施体制の見直し

植林は大雨季に実施しているが、農繁期と重なり村人たちが集まれる日程の調整に毎年苦労している。このため、植林実施時期を大雨季の前後にずらす、大雨季の場合も少人数による分散実施に変える、植林実行委員のような特定の委員やメンバーを村と選任するなど、実施体制の見直しを行う。また、植林に新たな価値（養蜂）を付加していくことで、地域的取り組みとしての運動に繋げていく。

3. 養 蜂

●課題１： 害虫対策養蜂箱の効果見極め

昨年度導入した害虫（スモール・ハイブ・ビートル：Aethina tumida）対策を施した養蜂箱による防除効果の見極めを行う。

●課題２： 養蜂箱 20 箱の新規作成、設置村の拡大

キリマンジャロ山での養蜂は、蜜源樹植林による養蜂環境整備、基礎技術の開発・向上（養蜂箱、養蜂管理）と進めてきた。今後もこれらに着実に取り組んでいくことが重要である。それと同時に、拡大展開を視野に入れた取り組みに着手する時期ともなっている。そこで、害虫防除対策をした養蜂箱 20 箱を新規作成し、うち 10 箱を新たに 2 村に拡大設置する（残り 10 箱は、ローテーション用のバックアップ）。また、新規設置するうちの 1 村は、村の了解が得られれば、山麓村を対象とした養蜂研修等を実施していくためのモデル養蜂場としていく。



養蜂箱からハチミツが一杯たまった巣を取り出す。キリマンジャロ山のコミュニティベースの植林、森林保全活動と養蜂をリンクさせていくことが、今後の重要な取り組み目標。

4. 改良カマド普及

●課題１： 2025 年度も 50 基を設置

政府はクリーンエネルギー（主にガス）への転換を進めているが、キリマンジャロ山の農村（とくに標高の高い場所にある村）や豆など現地で頻繁に使われる食材の調理には不向きで、改良カマド設置の要望が相次いでいる。そこで 2025 年度も前年度に引き続き、現在の最大設置能力である 50 基での新規設置を継続する。カマド職人の養成は適任者が見つかった場合に限り行うこととする。

●課題２： 代替炭事業の立て直し

2024 年度に実施できなかったカウンターパート TEACA で遊休となっている代替炭設備（昨年の豪雨による土砂崩れで設備が破損）の再稼働について、引き続き公的機関等との協力や資金支援を受けて、復旧、再稼働を図れないか、提案書を作成、提出する。一般家庭向きの改良カマドに対して、代替炭は政府により今年から薪炭材使用が禁止された学校等の公共施設等（※）大規模施設への供給、販売を企図している。

※ 1 日 100 人以上が利用する施設については薪炭材利用が禁止されたが、代替燃料や設備への切り替え資金がないため、ほとんどの学校等ではそのまま薪炭材を使い続けている。

5. 裁縫教室支援

●課題１： 生徒の確保

- (1) 生徒募集を現在の年 1 回から半年に 1 回に変更し、各家庭の財政状況などに合わせて入学タイミングなどをある程度フレキシブルに対応していけるようにする。
- (2) とくに新規地での募集において生徒獲得力を高めるため、奨学金とリンクさせた募集の仕組み作りを行う。

●課題２： 教師人件費の支援

2025 年度も教師人件費は当会にて支援する。

●課題３： 裁縫教室作成の衣類等の販売

昨年度、一部の会員の方から裁縫教室で作った衣類等の販売のご協力をいただいた。日本で販売するには品質や寸法などで見直しの余地があり、日本のマーケットに合わせたものが作れるかに取り組んでみる。これが難しければ、衣類ほど品質にこだわらなくても良い小物などで何かできないかを検討する。販売できれば売り上げを裁縫教室の運営費に充てられるようにしたいが、2025 年度は品質改善の可否判断のみに留める。



裁縫教室の先生にサンプルで作ってもらった服

6. 診療所支援

●課題１： 機材支援

診療所が保険適用を受けるためには、手続きの電子処理化が求められており、これまでインターネット接続環境の整備、パソコン、指紋登録機などの機材支援を行ってた。これにより保険適用は開始されたが、県医務局による査察の際、会計処理の電子化がされていない（Electronic Fiscal Device(EFD)が導入されていない）との指摘を受けた。このため 2025 年度は EFD マシンの導入を支援する。また、建設途中の診療所付帯施設（医師用住宅）の建設資金の一部を引き続き支援する。

●課題２： 村における病気発生状況の分析

2024 年末には、診療所受診者の月別、疾病別の 1 年分のデータが蓄積できる。これを診療所にフィードバックするとともに、過去のナティロ診療所のデータとの比較分析を医師と行い、村の診療に役立ててもらう。

7. 学校への文具支援

●課 題

2025 年度はキリマンジャロ山で植林に取り組んでいる小学校ないし中学校 1 校に対して、地域での貢献活動への努力を称え学用品の寄贈を行う。

【国内事業】

1. ニュースレター発行

●課 題：

ニュースレターは最低年2回発行とし、できる限り3回発行を目指す。また現地からのハガキ通信は最低1回を発行する。

2. インターネットによる活動報告会実施

●課 題：

現地での取り組みを画像データなどを使用し知っていただくため、GoogleMeet、Zoom等の電子会議システムを使った活動報告会を開催する（1回）。

3. 現地事業視察、ホームステイ受け入れ

●課 題：

2025年度も引き続き現地プロジェクト視察、農村滞在（ホームステイ）の受け入れを行う。一方、ここ数年の円安、現地物価の高騰のため、受け入れ費用については大幅な見直しが必要となっている。

4. 企業との関係づくり

●課 題：

2024年度に開始した、日本・タンザニアのロータリークラブの協力による植林プロジェクトの実現に向けて、現地での事業可能性調査を含め引き続き取り組む。2025年度中に結論を出す。

5. ホームページでの決済システム見直し、物販サイトの立ち上げ

●課題1： 独自決済システム構築

懸案となっているホームページでの独自決済システムの導入について、システム構築の知識のある方を募集する。ただしボランティアベースでの作業をお願いする必要があり、人材を得られるかについては相当ハードルが高い。

●課題2： 物販サイトの立ち上げ

収入強化のため、インターネットによる現地物品販売を検討する。必ずしも当会ホームページ上に独自のECサイトとして構築することにはこだわらず、メルカリ等の既存のフリマアプリを活用することも含めて方法を検討する。

6. 事務局ボランティアの募集

●課 題：

現地調査の長期化にともない、以前のようにコンスタントにインターンやアルバイトを受け入れることができなくなっている。このため現在は収集活動物品の仕分けなど、限られた内容での単発的ボランティアの受け入れにとどめている。しかし単発ボランティアでも手が足りない状況で、近在のボランティアセンターなどでボランティア募集広報を強化する。



タンザニア・ポレポレクラブ

(事務所) 〒 182-0005 東京都調布市東つつじヶ丘 2-39-11 アザレアヒルズ 203
(Tel/Fax) 03-3300-7234、(郵便振込口座) 00150-7-77254
(E-mail) pole2club@polepoleclub.jp、(HP) <https://polepoleclub.jp/>
(本 部) 〒 107-0062 東京都港区南青山 6-1-32-103